

婦人子ども



○ウエルズリーの三家庭

女子高等師範學校教授 岡 田 光 子

何か御話を申上るやうにとの中村先生よりの御依頼が御座いしましたが、御承知の通り、私はわちらで英語を修めて参りましたので、其間學校參觀を致さないではありませんが、幼稚園は一向見て参りませんでした、其話は出来ませんが、何か家庭其他幼稚園に關係あるもので宜しいとの御話で御座ますから、わちらに居つて度々出入をした二三の家庭について御話申さうと存じます、併しもとより學生々活を致して居りましたので、交際も至つて狭かつたをですから、唯私が見聞した家庭のとで、決して米國一

般の家庭のとはありませぬ、

私は在米三年三ヶ月間ウエルズレーといふ米國東方の田舎に居りましたが、此處はボストンから十五哩許り離れて居りまして、田舎とはいへ日本の田舎とは余程趣が違ひ文明の點に於ては少しも田舎めいた所がありません、唯其閑靜な點がいかにも田舎の特徴をわらはして居るので、戸数は二三百位も御座いませうか、瀛車か電車かで町に往くと、郵便局が一つ、菓物屋仕立屋洗濯屋小間物屋等が各一二間、寺院が二つ三つ有る位で、其他は大きな芝地や、花壇、樹園、又は廣い土地をもつて居る屋敷等が、あちらこちらに散ばつて居ります、往來も極く閑かで、時々自動車乗、馬者、荷車等が通る位、雜沓すること等は殆どありません、唯此邑に似合はぬ大きな規模を有して居りますのは、二つの學校で其一つは私の居りましたカレッジ他の一つはテナホール高等女學校いづれも有名な大きい學校で御座います、それで郵便局も此學校のあるために局中でも有力なものとなり、瀛車も其爲に頻繁に出入し、村人も多くは五人とか三人とかの女學生を下宿させて生活を助けて居るといふやうに、此邑は此學校のあるために出来て居るといふて宜しいので御座います、從ひて土地一般の趣味が學者風で、夜會とか訪問とかいふて立ちさわぐをもなければ、又大した金満家もなければ、補助を仰かなければならぬやうな貧乏人もないといふ、世に珍らしい村なのです、

私が今御話し申さうといふのは、此邑で摸範と仰かれて居る三つの家庭で御座いますが、三軒とも著

しく其趣が違つて居て而も皆よい特徴を持つて居るので御座います。

一、セントジョン氏の家庭 第一に申上げやうと云ふのは、セントジョン氏の家庭で御座います、

同氏夫婦は六十前後子なく女中一人庭係一人の家族、ごく簡単な生活をして居ります同氏は幼時一文なしの赤貧者であつたので、十才の頃に靴下を編んで十錢儲うけたなど申して居りますが、長くシカゴ鐵道に關係してスツカリ財産をつくり上げ、今は廣き屋敷をかまへ、思ふやうな家を建て、樂しく餘命を送つて居るのです、斯く辛苦をつんだ人に似ず、非常な慈善家で、雷に人を樂しませたり、惠んだりする許りでなく、鳥獸までをわはれんで自ら樂んで居られます、先づ其庭に行つて見ますと林檎、薔薇、野菜、などが植ゑてあります、鳥が澤山遊びに来るので、其等のために多くの箱を樹の枝にかけて巢を作るのに便利にしてやり、又盥に水をとつてやつて、鳥が行水をつかへる様にしてやつて居ります、馬も飼つてありますが主人自ら角砂糖等を與へて之を愛し、犬のためにも二階造の小屋等を造つてやつてあります、又ゆかりもなき憐れな小僧に人知れず外套等をつくつてやつて喜んで居ります、妻君は自分では教育のない者だといつて居りますが、好んで廣く雜誌新聞を読み、ハーバート大學生なる其甥の日曜毎に来るのを待つて、共に雜誌を読みかはすなど、間違ひながらも何事にも自己の意見を持つて居て、誰とでも話して行ける人なのです、平常も樂をして行かうと思へば、幾らでも樂は出来るのですが、毎日の仕事がきめてあつて、金曜日には夫婦で町に買物に往く事になつて居ますし、女中を外出させた

時には、自ら料理番にあたり、仕立屋を呼んだ時には、一緒になつて三日も四日も仕事をする等、至つて手輕な人で、來客なども喜んで迎へ、人と共に樂むのを何よりの樂として居りますから、とまり客の絶えた時がない程です、夫婦とも眞面目な宗教家で、日曜には必ず教會に行きますし、寺院等に對する寄附等も惜まらず致します、出入の人も皆正しき人のみで忌むべき人とは決しき交はらぬやうにして居ります、此家庭はつまり財産が充分わつて而も極く簡單に暮して居るよい例で御座いませう、

二、イーストマン氏の家庭 第二に申上げやうといふのはイーストマン氏の家庭ですが、是は前申上げた家庭とは大層趣が違つて居りまして六十以上になる姉妹の老婦人が二人、其從姉の七十以上になるのが一人都合三人の家族で珍らしいとは此三人ともミスなので御座います、身分は邑中第一でイーストマンといへば誰も知らぬ者はありません、姉妹とももとはテナホール女學校を管理して非常によい成績を擧げられたのですが、今は可成の老年になられたので然るべき人に職を譲り、今は顧問といふ名義で同校の傍に居所をかまへて居られます、此家には無暗な人は出入りしません、人は皆此家と交際するのを名譽として居ります、室内の裝飾なども、極く趣味が高尙で、一として矢鱈なものはありません、且つ家族間の優いさしくして親切に、坐作進退の上品にして作法ある、來客をして自然と禮儀を考へさせるといふ風で、米國には先づ珍らしい家なのです、智徳共に高く世の中の事にも廣く通じて居りますから、來客との話なども中々面白いですが、人は皆あの人々の口から他人の惡評をしたのを聞いた事がな

いと申して居ります、修養の結果で御座いますか。

ラザレー氏の家庭 次はラザレー氏の家庭で御座いますが、此うちはイーストマン氏のうちの一間

いて隣りです、先づ鈴を鳴して此家を言づれますならば、中からは誰が出て来るか解りませぬ玄關に立

て聞いて居ると家内の賑はしさ一通りではありませぬ、扱案内について入つて行きますと、中央の一間

ピアノの所には少女が歌ひ、傍のソファーには青年が數輩樂しげに語り、向ふのファイヤブレースの前

には、大人しき老人が靜かに何か考へて居るといふやうな、一見びく亂脈なやうなうちに御座います、

家族は夫婦と夫の老母と子供五人、長男は三十前後で父と同職につき、長女は二十四五で高等女學校卒

業後家庭に居つて自分の好める家事の手傳をし、次男はエル大學の森林科に入り、次女は十五六才で

すが今年大學に入りました、末の子は十才位な女の兒です所で此の次女といふのが、大變面白い子で私

とよく話しましたが、非常に文才があつて毎年自分で脚本を作り、ちやんと臺詞をつけ、舞臺の趣向から、

仕度のとから、獨りで考へて、毎年十一月頃、澤山の客を呼んで、二十錢位な會費をとつて、芝居をし

て見せます、いつかのクリスマスに此の子が人形をつかふといひますから、往つて見ましたら、例の通

りか客をして姉さんにかけて脚本を讀んでもらつて、自分は男女さまざまな人形を巧みにあやつり、な

かなか立派にしあげました、行儀がよいとか上品とかいふではありませぬがさつぱりとした愉快な趣味

のある子で、歸國前私が學校の舞踏會が見たいから案内してくれなど申しました時にも、何から何まで

其れはよく氣をくばつて、世話をして呉れましたが、今年は文科大學に入れましたのでお母さんも大層よろこんで望を屬して居ります、

十六

祖母さんといふは、九十に近い老人で優しさうな上品な人ですが、哀れなことには盲目で何時もたく火に手をかざして考へがちに暮して居ます、孫の聲は聞えるけれどもどんなに大きくなつたか解らないなど申して居りましたのに、近日また耳が遠くなりましてきくとさへも不自由になりましたが、大層忍耐強いので少しも不平さうな顔色もなく、私などが訪ねてゆきますと、何時家からたよりがあつたか、両親は御丈夫かと、何時も親切に問ふてくれ、昔語りなどをして聞かしてくれました、盲目でいかにもつまらなさうなのに、何時も一人で二階を上り下りして、寢具の用意も、衣服の着かへも、皆自分でします、二三年前から先生をやとひて、凸字を習ひ、盲人の讀本を買て、指先でもつてワシントンとかケルソンとかの傳をよみ、また自分で詩などを作つてよろこんで居ります、今年丈の命かと思ふので別荘に對する別れの詩を作つたと申しますから、紀念に頂いてをきたいと申しましたら、何あなたのために別れの詩をよませうといつて、送別の詩を口ずさみ、孫にかゝせてよこされました、前後に申上げたいのはミセスラサレーで、此の人は又大層な活動家で、市場に買出しに行く、仕立屋を呼んで仕事をすると、邑中の人を呼んで茶話會をする、五人の子供の教育をする、等皆一手に引受けて少しもたいぎな様子もなく、子供なども幼き時より、昔話をよく讀ませて、文學趣味を養つてや

るなど申して、藏書なども大部あるらしく、始終貸して呉れました、イースターヴエケーションには、家族を残り話合手となる、友人を相携へて、必ず旅行をいたします、一昨年は私も其の仲間になつて六人ぞろひで、ワシントンに参りました、旅の間にはよく市場に行つて其の土地の人情を察し、又大きな寺の建築とか裁判所とかを見にまゐります、普通の人の見物の仕かたとは一寸違つて居ります、俱樂部にもよく出席しますので大學のセクスピアの研究會の會員ともなつて居ります、婦人同志で拵へて居る金曜會にも必ず出席をいたします、此の會は毎金曜日に午前十時から十二時まで、番に當つた一會員の宅に集つて、何か持つてゐつた仕事をしながら、新版の書物等を輪讀しながら、懇信の目的をとげるのです、子供の誕生の日などには、其の子の望みに應じてやるとして、或る日の如きは男の子と一緒に朝から晩まで、ポストン中其子の望む所に行つてやつたなど申して居ります、クリスマスの日にも、澤山の人が自ら集つて来て、盛んな會合が出来ますし、時々自宅で文學會などを開き、知己の學生、其の他有志者を集めて、其の作を讀みあげしめ、審判官をさめて賞品を出すなど、面白いのんきなどを、多忙の中によくやります、誠によく話す人で御座います、
 大ぶ長くなりましたが以上三家庭をついで申しますならば第一のセントジョン氏の家庭は金持でよくやつて居るので、第二のイーストマン氏のは徳でおさまり最後のラザレー氏は威厳とか氣品とかはありませんが愉快に人を歓迎するといふ特色をもつて居るので御座います、

此の様な面白い愉快な家庭の此の邑に多く御座いますのは、一つは社交上六ヶ敷いさまりがなく、着物なども、何でなければならぬとか、訪問時間外には十五分間以上人をわづらはしてはいけなとかいふ四角ばつたものがなく、ひまがあれば朝でも晩でも手軽な服装で訪問の出来るを、二つには土産とか贈物とかいふものはクリスマス以外には殆んどしない、例令するにしても庭の花とか畑の果物とかにすぎないので、時には目録丈やつて置いて品物はあとで出来上つてからやるといふ風に生活が極く單純なので、三つには毎日の仕事にきまりがあると、四つには衣食住のとはなるべく便利よく簡單になるべく短時間でしあげ、餘りの時間を甘くつかつて、家庭を詩的にするにとつとめて居るからであります、カレーシの卒業式に或る人が教育をうけた婦人の第一のつとめは、毎日の生活を趣味ある高尚優美なものとするにがあると、申されましたが、實に尤なをと存じます、あまり長話をいたしました。

十八丁

奥、に里あり

梅の花

